

令和 3 年度事業報告

☆一般情勢

コロナ禍において社会的養護関係施設の現場では、感染防止対策に取り組む中、改めて子どもたちの命を預かり、日々の養育支援が子どもたちの安全・安心な生活に繋がっていることを再確認できました。2020年月上旬に新型コロナウイルスが日本で確認され、その後、全国で緊急事態宣言が発令され、社会的養護関係施設下で生活をする子どもたちにも大きな影響を与えました。2年以上経過した現在、まん延防止等重点措置も解除されたものの、まだ予断を許さない状況が続いています。

また、すべての子どもの施策に対する司令塔の役割を持つという「子ども家庭庁」の創設が閣議決定された。我々社会的養護関係施設は「何をしなければならないのか。」「役割とはなにか。」という事が国民や行政から問われています。政府は子どもの政策について、「子どもの意見を聞き、子ども目線の政策を進め、子どもの権利を守る社会を目指す」と説明しています。我が法人として、子どもの育ちを豊かなものにするために、国の指針に従いながらも独自の支援を展開していきたいと考えています。

ここに法人及び三施設の努力目標の達成度について報告致します。

努力目標達成度

1 法人（本部）

- 1 児童の人権擁護に最大級の注意を払うと同時に、困難な実態を直視し、各施設の支援の充実を図る。
 - ・養護園において、子どもの人権が損なわれる恐れのある重大事案（被措置児童虐待の疑い）が起こり、その原因究明と再発防止に取り組んだ。
- 2 法人の中長期ビジョン策定とガバナンスの強化を図る。
 - ・京都市との話し合いが十分進まず、具体的なビジョン策定にいたらなかった。社労士との契約が進み、ガバナンスの強化が図れた。
- 3 3施設長会の定期開催と更なる3施設の連携強化を図る。
 - ・3施設長会の定期開催及び管理職の施設間交流を行い、連携強化を図った。

2 養護園・ミニトクホーム・善峰ホーム・青雲塾ホーム

養護園では令和3年度、新型コロナの陽性者が4回、合わせて12名の罹患者が発生したが、すべて症状が軽く、ユニット毎の隔離を行うことで、重症化することもなく、大規模なクラスターにならなかった。今後においても引き続き感染対策を行っていきます。

- 1 子どもの権利擁護の視点を重点的課題とする。
 - ・コロナウイルスの影響もあり、定例の第三者委員会が実施出来なかった。
 - ・継続して、子ども達の意見、要望の聴取について、より気軽に子ども達自身が出せるように意見箱を継続設置した。
 - ・養護園職員による被措置児童虐待の認定を受ける行為があったため、権利擁護、福祉倫理等を中心に全職員を対象に研修を行っていきます。
- 2 職員の資質向上に努める。
 - ・コロナ禍において、全員参集の会議の実施が出来なかった。
 - ・心理職員を中心に職員の年代毎に座談会を実施し、職員のメンタルヘルスを含め研修の充実を図った。
 - ・心理職員や家庭支援専門相談員がブロック会議等への参加を強化した。
 - ・コロナウイルスの流行に伴い、参集型の外部研修への職員派遣が出来なかった。
- 3 児童養護施設での今日的課題である、地域化、小規模化及び個別化に向け取り組みを行う。
 - ・自立支援計画書の焦点化を目標にあげたが、評価欄の改善が課題としてあがり、今後改善を行う。
 - ・地域化、小規模化及び個別化の取り組みの中、時間外勤務や宿泊回数等、労務問題や、個人の判断が先行する等、組織マネジメントに課題を残した。
- 4 職員の人材確保、人材育成の充実をはかる。
 - ・コロナウイルスの流行の為、施設見学会の実施が出来ず、また新規採用への応募者が少なく、人材確保に苦慮した。今後、SNSの利用やホームページを改編する等、工夫を行い職員の人材確保に努める。

3 乳児院

「子どもの最善の利益」を保障するため、更なる施設の高機能化・多機能化及び小規模化を図ること、With コロナ、after コロナを念頭においた新しい取り組みを展開するについて、5つの課題に取り組んだ。

1 専門的養育機能の充実について

- ・定員20名、入所児童8名（被虐待児4名）、延べ日数3,819日、一時保護委託児38名、延べ日数1,119日、合計延べ日数は4,938日だった。退所児童は13名、内訳として家庭引き取り9名、養護園移籍1名、里親委託等3名だった。
- ・ケアニーズの高い子どもの相談が増える中、入所、一時保護の利用が極端に減少した。

2 小規模グループケアの充実について

- ・子どもが減少したことで、一人ひとりの子ども達により深い関わりを持つことができた。しかしコロナ禍において、昨年度と同様に生活や行事の制限、人流の制限を行うことの葛藤が深まった。

3 早期家庭復帰に向けた保護者支援・里親支援の充実について

- ・児童相談所やはぐくみ等関係機関と協働し、保護者支援にあたった。また、Withコロナの取り組みとして、SNS（スカイプ）を利用し保護者との面会を実施した。

4 乳幼児ホーム構想実現に向けた取り組みの充実について

- ・行政との話し合いが十分進まず、構想は頓挫している。また、コロナ禍において、養護園との連携も進んでいない。ただ外部講師を招いて、年齢超過児童への対応について研修を行った。

5 職員の人材確保・育成・定着の充実について

- ・Withコロナを念頭においた研修計画を立案し実践した。
内部研修 21回、参加者231名
外部研修（Web）39回、参加者66名

4 岡崎幼児園

1 職員体制の強化

- ・年度途中に3名の育児休業者と1名の退職者があり、職員の配置に苦労した。
- ・昨年から続く、コロナ感染対策のためクラスごと、少人数の保育を実施したため、職員配置に余裕がなかった。
- ・年度の終わり頃に、児童の障害児認定があり最終的に職員配置ギリギリの状態であった。

2 保育内容の充実（コロナウイルス感染状況により対応）

- ・コロナ感染対策のため、クラスの連携が出来なくなったことで、連携の強化が出来なかった。

- ・ キャリアアップ研修などの研修は、会場での対面研修からオンライン研修に変わったため、研修に参加する機会が増えた。
 - ・ オンライン会議・研修のため、オンライン設備を整えた。
 - ・ 定期的な園内研修は、実施できなかった。
 - ・ コロナウイルス感染のため、普通にしていた保育が、普通に実施出来なくなったことで、どうすれば実施出来るか？考える良い機会にもなった。と同時に今までの状況に戻るか？という不安が出てきた。
- 3 子育て支援の強化（コロナウイルス感染状況により対応）
- ・ コロナウイルス感染のために、あそぼうクラブ・ネットワーク会議・中学校、高校生による取り組みが中止となる。
 - ・ 昨年中止していたクラス懇談会を、感染対策を考え実施した。
 - ・ 保護者会の取り組みも中止となったが、メール等を利用し保護者会の体制は維持することが出来た。
- 4 調理室の充実
- ・ 管理栄養士の雇用により、体制は整ったが機能するまでには少し時間がかかりそうである。
 - ・ 「食育」もコロナウイルス感染のため、クッキングなど計画通りに実施することが出来なかった。
 - ・ 離乳食、献立の見直し等が十分に出来なかった。
- 5 環境の整備
- ・ グランドに設置してある「ステージ」の改修が出来た。
 - ・ 玄関のオートロック設置が出来なかった。
- 6 地域との連携
- ・ 園主催の対外行事をすべて中止した。
 - ・ 予定していた地域団体との交流行事がほとんど中止となった。
 - ・ 地域のデイサービス慰問の代りに年長組が手作りの飾りをプレゼントした。